

東北地方交通審議会 交通部会報告 (概要)



構 成

はじめに

第 1 章 地域概況と交通の動向・課題

第 2 章 広域的な公共交通 交流人口の拡大

第 3 章 都市交通 快適で活力ある都市の実現

第 4 章 「地域の足」 暮らし続けられる地域づくり

第 5 章 環境対策 地球環境・美しい自然の保全

まとめ

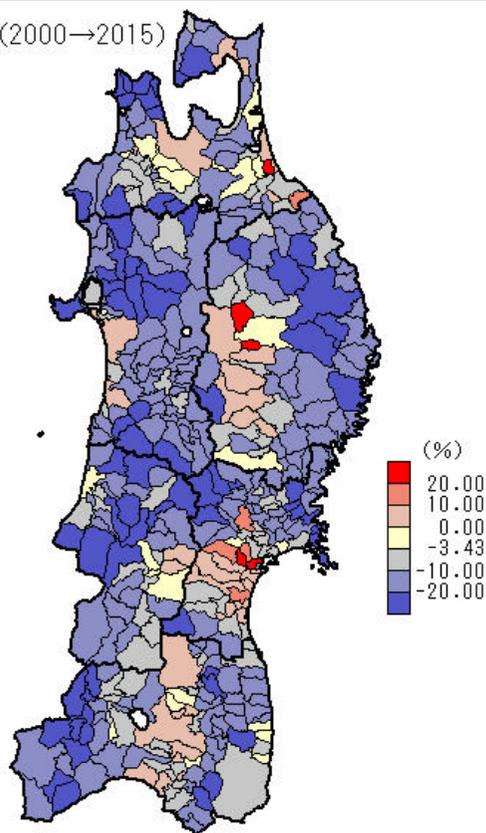
おわりに

第章 地域概況と交通の動向・課題 ~ 地域概況

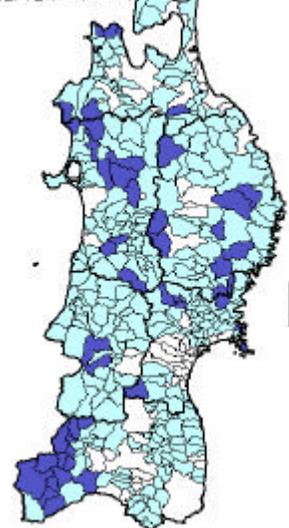
進む人口減少と少子高齢化
(特に地方部において顕著)

地域の活力の低下の懸念

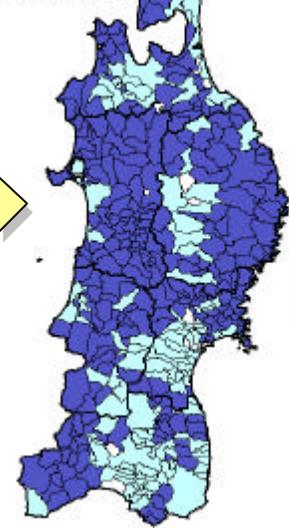
人口増加率 (2000→2015)



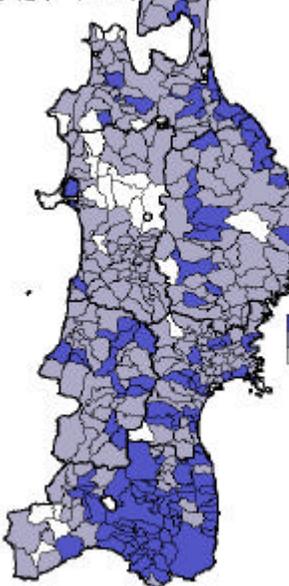
高齢化率 (2000)



高齢化率 (2015)



少子化率 (2000)

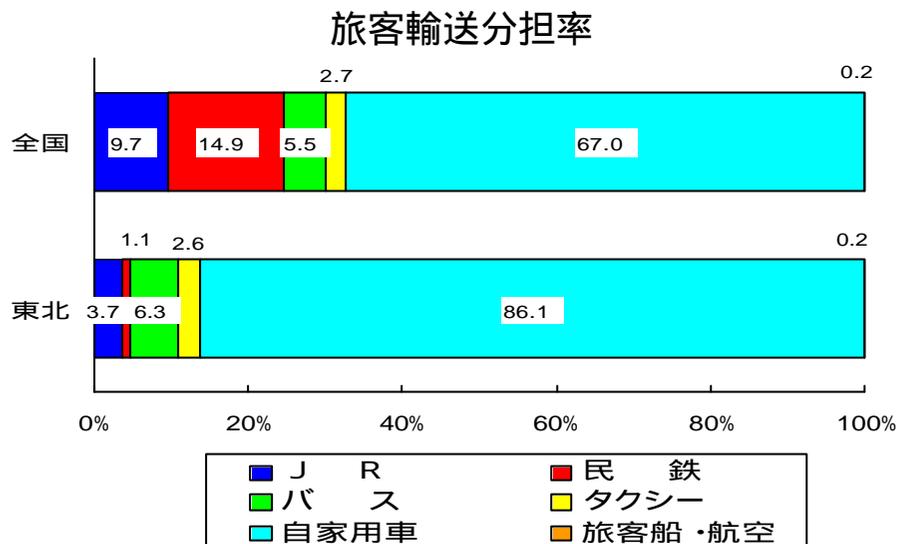


少子化率 (2015)



資料：住民基本台帳人口要覧《2000年のデータ》
国立人口保障・人口問題研究所（14年3月推計）《2015年のデータ》

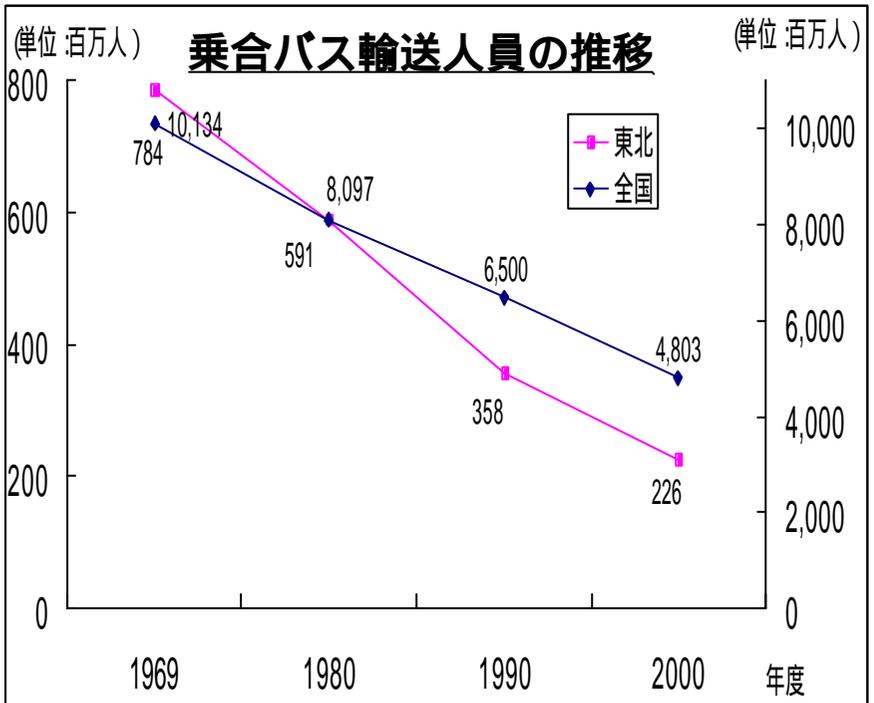
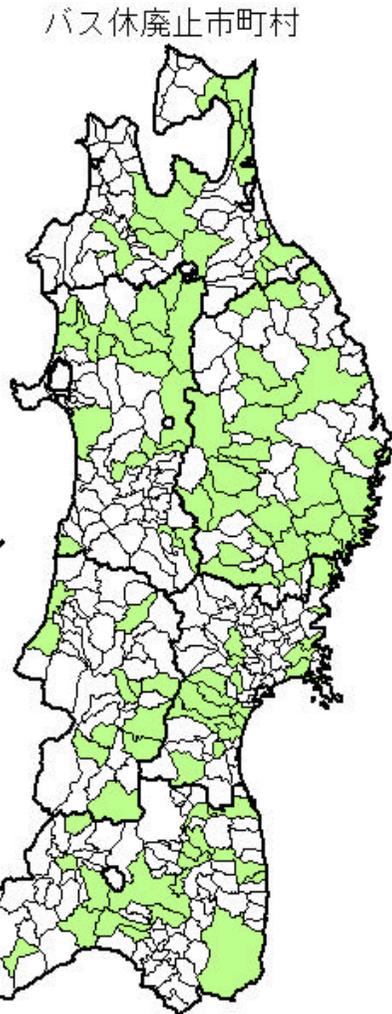
第章 地域概況と交通の動向・課題 ~ 地域交通の動向



高い自家用車への依存度
公共交通の輸送量の激減
進む公共交通の撤退

地域住民の
生活の足」が
失われるおそれ

都市部では
渋滞の深刻化



改正道路運送法の施行
(14年 2月。退出手続きが
届出に緩和)以降に
バス路線の撤退があった
市町村は、
全体の 4分の 1

(緑色の箇所)

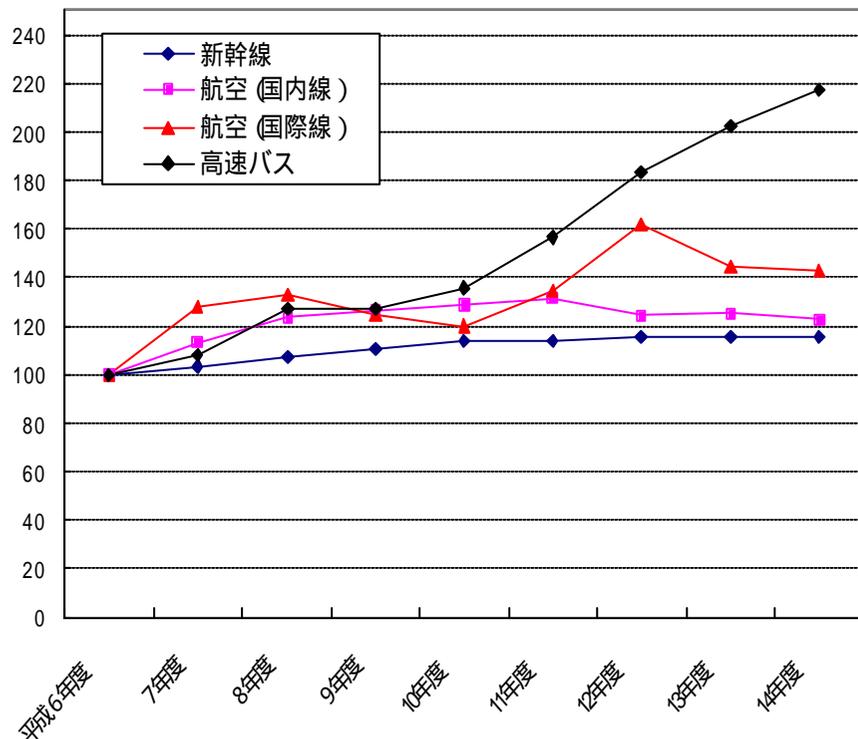
16年 3月末時点

第章 地域概況と交通の動向・課題 ~ 広域交通の動向

高速交通基盤の整備

広域的な交通量は増加

新幹線駅・空港から目的地への公共交通の輸送量は伸び悩みも



(参考 新幹線開業時期)

東北新幹線

大宮～盛岡間 S57.3

大宮～上野間 S60.3

上野～東京間 H3.3

盛岡～八戸間 H14.12

山形新幹線

福島～山形間 H4.7

山形～新庄間 H11.12

秋田新幹線

盛岡～秋田間 H9.3

(参考 新幹線整備中区間)

東北新幹線 八戸～新青森間



第章 地域概況と交通の動向・課題 ~ 交通の課題

課題 1 交流人口の拡大

課題 2 都市の活力・快適性の向上

課題 3 地域の生活基盤の維持

課題 4 環境問題への対応

検討のポイント マイカー社会の中での公共交通の主な役割

検討のポイント 環境変化の中での新たな取組みの方向性

検討のポイント 施策を確実に進めるための実施時期・優先順位

第2章 広域交通 ~ 交流人口の拡大に向けた役割と方向性

役割 高速かつ快適な広域移動手段の提供
~ マイカーでは満たされないメリット

役割 高速交通基盤と目的地を結ぶ移動手段の提供
~ 特に「来訪者」にとって重要

方向性 高速交通基盤の着実な整備
~ 新幹線、空港アクセス鉄道、高速バス

方向性 需要に応じた供給形態の見直し
~ 新幹線駅・空港から目的地への「足」の維持・充実

方向性 多様な関係者が一体となった取組みの推進
~ 地域一体となった需要喚起・効率化

第2章 広域交通 ~ 取り組むべき施策等の例(12)

整備新幹線・仙台空港アクセス鉄道の着実な整備



開業にあわせ、整備効果を
最大限活用する取り組み

~ 新駅からのバス網等整備
~ 在来線との直通運転 等

新たな整備計画についても
粘り強く検討

高速バス網の一層の充実

第2章 広域交通 ~ 取り組むべき施策等の例(2/2)

新幹線駅・空港から目的地へのアクセスの充実



需要に応じた適切な
アクセス手段への転換
～ 乗合タクシーの活用なども

乗継ぎの円滑化

多様な関係者が一体となった
効率的・効果的な情報発信
魅力ある旅行商品の導入

第3章 都市交通 ~ 活力ある都市の実現に向けた役割と方向性

役割 渋滞・環境等の都市交通問題の緩和
~ 公共交通機関の利用促進

役割 駅前などの中心市街地の活性化
~ にぎわいの創出・中心市街地へのアクセス確保

方向性 需要を喚起する多様な「新サービス」の導入
~ マイカーに負けない利便性の創出

方向性 公共交通が一体となった取り組みの推進
~ 乗継ぎの円滑化など

方向性 地域住民・NPO等の参画
~ 利用者の視点からの改善やボランティア的な支援

第3章 都市交通 ~ 取り組むべき施策の例 (12)

都市鉄道の機能強化 ~ 新線・新駅整備



開業にあわせ、整備効果を最大限活用する取り組み
~ バスとの結節の改善 等

盛岡市のゾーンバスシステムのイメージ図



定時性・高速性の向上
使いやすい路線網への改善

バス利用環境の改善 ~ バスを活用したまちづくり

第4章 地域の足～暮らし続けられる地域づくりに向けた役割と方向性

地方部は公共交通の輸送量の減少が特に顕著

・交通の主流がマイカーにシフト

・極めて厳しい経営状態 ～公共交通は維持困難に

しかし…

役割 高齢者や生徒などの移動手段として引き続き必要
～「地域の足」は必要不可欠な地域基盤

方向性 需要構造の激変に対応した抜本的な見直し
～持続性のある「地域の足」への転換

方向性 地域住民等の参画や支援
～事業者・利用者の垣根を越えた取り組み

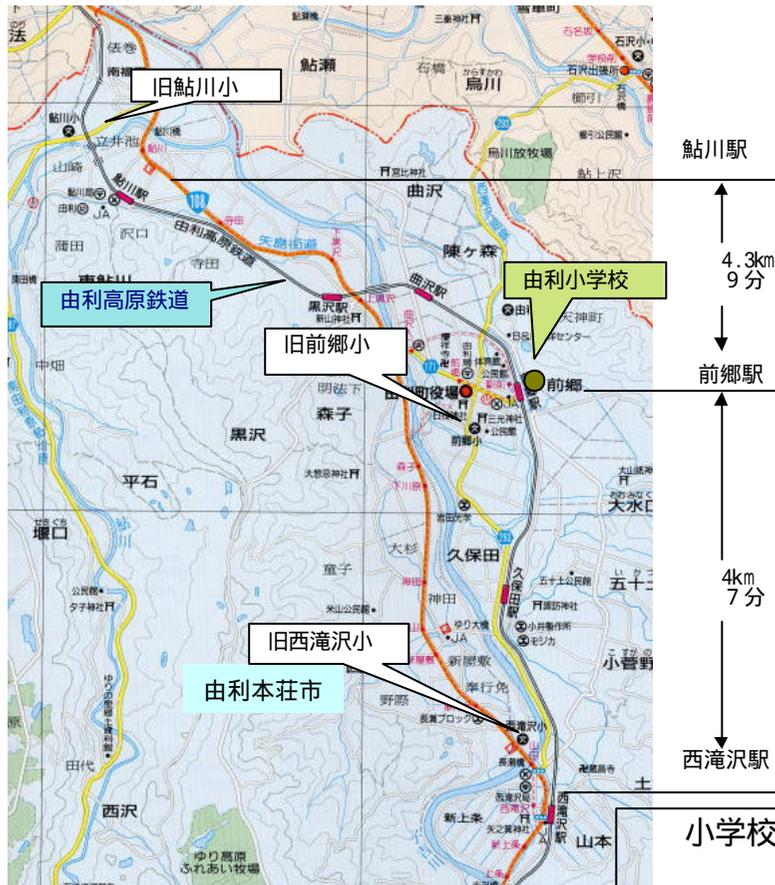
極めて緊急性の高い課題

第4章 地域の足～取り組むべき施策の例(1)

地域一体となって公共交通のあり方について検討

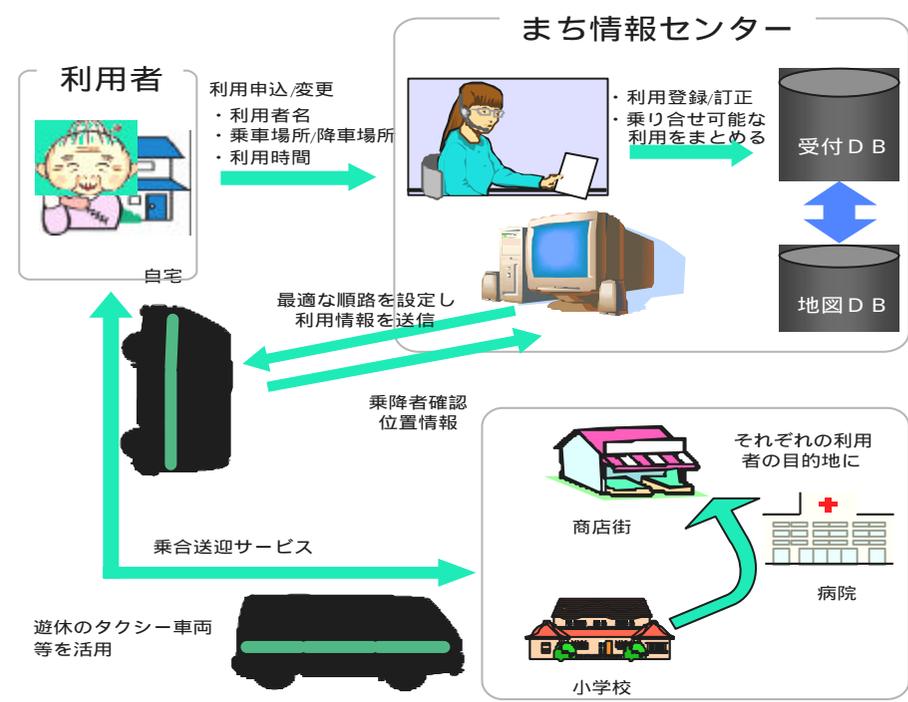
地域一体となった公共交通の維持

新たな「地域の足」の開発と普及



小学校の統廃合に合わせ駅前に新設小学校を配置し、地方鉄道の利用促進を実現した事例

交通空白地域の新たな足として導入されたデマンド型乗合タクシー



遊休のタクシー車両等を活用

第5章 環境対策 ~ 環境の保全に向けた取り組み

車両の低公害化の推進

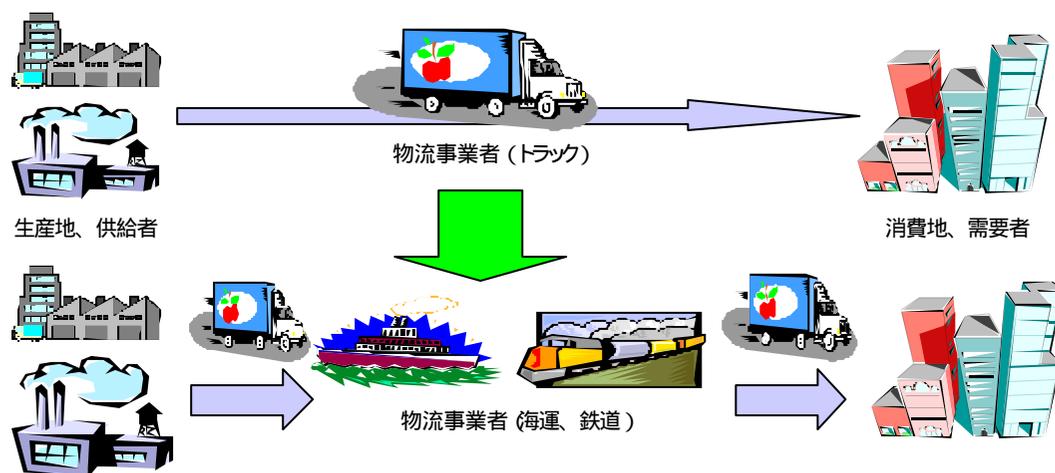
~ 自動車の低公害化、鉄道車両の低公害化

物流部門の環境対策

~ モーダルシフトの推進
物流の効率化の推進

旅客部門の環境対策

~ 観光地等のマイカー規制
「ノーマイカーデー」



環境負荷の小さい 交通体系の構築

~ 「グリーン経営」
環境施策の集中実施